

剣を鋤に

渡嘉敷北東の北山（にしやま）の頂上に建つ、マツが点在する芝生の中にあるこの白い建物の集まりは、宿泊型の研修施設です。日本中の青少年（児童・生徒・学生）の団体、青少年教育指導者（学校・法人等）の団体、グループ・サークル、官公庁・企業、家族等が野球の練習や海洋生物の勉強のため、または余暇を過ごすためにここを利用します。1960年から12年間、米軍基地があったこの場所は、1973年の沖縄返還に先駆け、1972年には現在の平和的用途に変わりました。

施設全体は壁に囲まれていて、外側に突き出たヘリがあり、毒を持つヘビ「ハブ」が侵入してくるのを防いでいます。壁の外へ行く許可をとれば、1945年3月に起きた集団自決の現場の一つを訪れることができます。古い米軍倉庫のそばにある門をぐり抜け、慰霊碑を参り、森林地帯へと降りていきます。慰霊碑の近くには、沖縄集団自決の際の侵略者の恐怖が詳細につづられた、当時の米国新聞の切り抜きが貼られた碑があります。

ここにはさらに2か所の展望所があり、西には慶良間諸島を望む景色、東には沖縄本土を望む景色が楽しめ、どちらも立ち寄る価値があります。運が良ければ冬季にクジラを1頭か2頭見つけられるかもしれませんので、双眼鏡をお持ちください。